

九州大学

IdPの構築状況, IdPと連携する学内 SPの状況

伊東栄典, 中國真教, 笠原義晃, 井上仁, 鈴木孝彦 *

片岡真, 牧瀬ゆかり, 香川朋子, 井上創造 **

* 九州大学情報統括本部

** 九州大学附属図書館




九州大学

1. 九州大学の状況

附属図書館と情報統括本部が連携して活動中

- 附属図書館
 - eリソースサービス室
 - eリソース: 電子ジャーナル, 電子ブック, データベースなど, ICTを介するサービスの総称
- 情報統括本部
 - 情報システム部+情報基盤研究開発センター
 - 全学共通認証事業室
 - 学内構成員のID発行・管理
 - 認証サービスの提供

2. IdPの構築状況

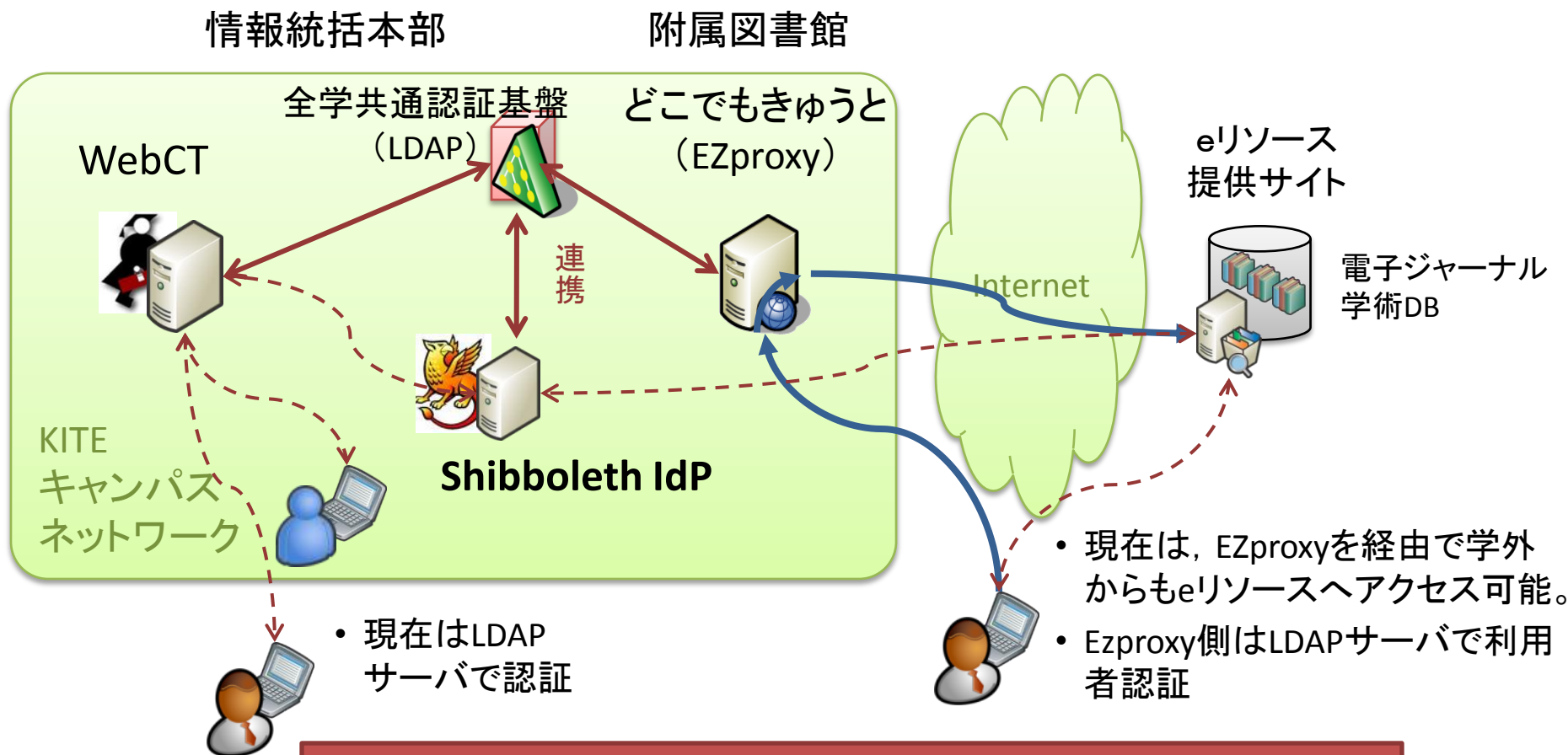
- 実証実験用Shibboleth IdP構築 
 - 2008年9月9日稼働
 - NIIのVMイメージを入手して，稼働
 - 当初，Linux上にインストールしたが，うまくいかなかった。
- 九大の全学共通認証基盤(LDAPサーバ)とは未接続
 - 学内の全構成員へ，全学共通ID・パスワードを発行
 - 学生：学生番号に基づくID
 - 職員：10桁乱数のID
 - 実験を進めた後，全学共通認証基盤と接続予定
 - 全構成員が使えるサービスができれば正式に接続

3. IdPと連携する学内SPの状況

- 以下のサービスでのShibboleth IdP SSOを調査・検討中（まだSSOは実現していない）
- WebアプリであるためShibboleth IdP経由のSSOが導入しやすい

	附属図書館	情報統括本部
学内	<p>どこでもきゅうと（EZproxy）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学外からのeリソース(電子ジャーナル等)利用 • 学内にサーバを設置 • 9/25から試行サービスを提供中 • 現在, 全学認証基盤のLDAPサーバと接続 • Shibbolethへの対応作業中 <p>きゅうとMyLibrary</p> <ul style="list-style-type: none"> • 貸出更新、貸出状況確認、文献複写/貸借申込など • SAML2.0対応予定(2009年12月) 	<p>WebCT</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2003年, サービス開始(全学生・授業担当者) • 2007年, 全構成員を登録 • テスト用のWebCTサーバに, Shibbolethモジュールを導入済み
学外	<p>RefWorks</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文献リスト管理のためのWebアプリ(SaaS型サービス) • 現在は, 各自が登録してアカウント作成 • Shibbolethに対応を調査 <p>電子ジャーナル／文献データベース</p> <ul style="list-style-type: none"> • EZproxyの次期バージョンとして期待 • 調査中 	<p>大学向け無料メールサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学内での利用を検討中

附属図書館 「どこでもきゅうと」(EZproxy) 情報統括本部 WebCT



今後は, Shibboleth IdPによるSSOに期待

4. Shibboleth SSO導入の利点

- 学内向けサービスの改善
 - 利用者の利便性向上
 - 一度の認証で、複数のサービスが利用
 - 学外・学外を意識する必要がなくなる(利用時は、かならずIdPで認証)
 - 管理作業の効率化
 - 外部サービス(SaaS)での認証を一本化
 - セキュリティの問題
 - 複数レベルを設定できるのか
 - 低セキュリティレベルサービスの認証はID/PWだけで、
 - 高セキュリティレベルサービスの認証は、他の方法をするなど
- 大学間フェデレーションによる効率化
 - eリソース(電子ジャーナルなど)の団体利用など
 - 利用者のすそ野が増えれば、現在是对応していないサービスがSaaS化される可能性もある
- 大学間でのサービス連携の可能性
 - 認証レベル・方式が共通化すれば、その基盤上にサービスを提供可能
 - 大学間のサービスを組み合わせた、新しいサービスが構築できる可能性

5. 今後の計画

- 各サービスでの対応を進め、学内サービスでのSSOを実現
- スケジュール
 - 11月: WebCT, EZproxy
 - 12月: RefWorks
- 独自の研究開発:
 - 組織間サービス連携のための、グループ・コミュニティを利用した認可機構
 - グループとして、WebCTの講義受講者を利用
 - グループメンバーであるか否かで、認可
- 詳細は、まだこれから
 - 協力していただける大学を探しています

組織間サービス連携のための、グループ・コミュニティを利用した認可機構

